

『リズムあそび』

そよかぜ保育園で毎日のように遊んでいる“リズムあそび”。実際に遊んでいただき、子どもたちの育ちを実感してもらいたいと思います。

▽ リズムあそびってなに??

ヒトは・・・

魚類から両生類、両生類からは虫類、は虫類から哺乳類、そしてヒトへと進化を遂げました。リズム遊びの中にはこれらの進化を辿る動きが組み込まれているのです。

魚類 → 金魚運動 両生類（寝返り、うつ伏せ）→ どんぐり
は虫類 → ベタ這い 哺乳類 → 四つ這い、高這い
ヒト（歩行、走る）→ 汽車 など

これらの動きの中で全身の発達を促すことによって、脳神経系の発達をはかるのが“リズムあそび”となります。

▽ リズムあそびの中での育ち

- ① ピアノのリズムを聴き、自然と身体が動き、楽しく気持ちよく身体を動かす

主体性

- ② 大人の動きを見ながら真似っこしてやってみる

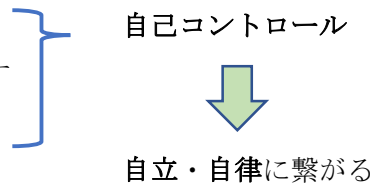
模倣力

- ③ 自分の身体の使い方を知る

- ④ ピアノを聴き、リズムに合わせて身体を動かす

- ⑤ 自分で判断して動く

- ⑥ 身体作り



また、脱力運動により**血液の循環**を良くする、身体の**左右差**をなくする、**空間認知**を広げる 等々、たくさんあるリズム遊びの一つ一つが身体の発達に繋がっているのです。

そのために、

- ・動きやすい服装（半袖、半ズボン）
- ・録音した音源ではなく、子どもたちの姿を見て弾く、“生”のピアノ演奏
- ・大人も全力であそぶ

を大切にしています。

.....

『 わらべうた 』

子どもたちに伝えたい文化の一つである“わらべうた”

～わらべうたを通して「人と関わる力」を育てる～

保護者の方や保育者といった特定の大人との間で身体的な一体感（空腹を満たしてくれる授乳やオムツ交換するときの関わりなど）を基礎に、“信頼”と“愛情”の関係を作り上げ、やがてそれらの感覚を獲得していきます。

この時期に大切なのは「わらべうた」や「あやしあそび」に始まり、「絵本・紙芝居・歌」といった「文化」を大人と子どもの間に挟むことで、同じ言葉が同じ調子で、同じ心地良さ・面白さを繰り返しながら子どもの身体に刻み込まれていく点にあります。子どもたちはそうした面白さを大人と共有する経験を通して、他者と共有する「物語」の原型を獲得するようになっていきます。一方的・強制的・事務的に文化を共有することなく、対話的關係の中で子どもたちと文化を共有することが大切です。

